

2. 日本語教育部門

一橋大学の日本語教育は、1996 年 4 月より実施に移された学内教育改革、及び、同年 5 月の「留学生センター」の設置と同年 10 月からの「日本語研修コース」の開始によって、それまでとは大きく異なるものとなった。日本語教育がどのように改革されたかについては前掲の「日本語教育の 10 年」で述べられているので、ここでは 96 年度後半とそれに続く 97 年度について報告する。

日本語教育は大きく 5 つに分けられる。第一は「日本語研修コース」であり、文部省国費研究留学生に対する日本語の予備教育である。第二は「教養教育科目としての日本語科目」であり、第三は「学部教育科目としての日本語科目」、第四は「大学院科目」、そして第五は「補講としての日本語科目」（「春季・秋季日本語コース」及び「その他の日本語補講」）である。第一と第五を除いて、これらの日本語科目はすべて単位が認定され、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教員が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれず、講義を担当していることもその特徴として挙げられる。

1. 日本語研修コース

〈コースの概要〉

本コースは文部省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を行うコースである。このコースに所属する留学生は「日本語研修生」と呼ばれるが、本学配置の者のほか、主に関東地区の国・私立大学への進学予定者も含まれている。日本語学習歴ゼロの者から初中級レベルにある留学生が日本語予備教育を受講することとなる。半年の学習の後は、本学または他大学の研究生となる。なお、大学院入試に合格して大学院生となる場合もある。本コースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得することであり、また、それぞれの専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学の総合大学であるが、前述の通り、他の大学に配置される学生もあり、日本語研修生の専門分野は社会科学分野とは限らず、理工系から、教育、芸術の分野と幅広い。特に、中級以降ではそれぞれの学生の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16 週間の本コース修了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季日本語コース」および、学部の科目（「教養教育科目」「学部教育科目」）の中に準備されている。例えば、学習歴ゼロで日本語研修コースに入学した学生の場合、16 週間の研修コース修了の後、3 週間の「春季・秋季日本語コース」内の、中級への橋渡しクラスで学習を継続

する。さらに「春季・秋季日本語コース」を修了した本学配置の学生には、次学期に学部
の科目のなかに、そのレベルに合った日本語クラスが連動しており、日本語学習をスミ
ースに継続できるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「異文化発見ゼミ
ナール」が 97 年度から開講され（木曜午後 2 コマ）、日本の社会と文化を理解するための講
義・工場見学・中学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

〈各学期報告〉

①第一期（96 年 10 月コース '96 10 月～ '97 3 月）

7 か国から 7 名の留学生が参加。3 クラス編成。5 名の未習者を 2 クラスに分け、
2 名の既習者を 1 クラス（中級レベル）とした。なお、既習者クラスには東京外大で日
本語予備教育コースを修了した 6 名の研究生も参加した。

日本語教育担当教員は 4 名の専任教官、及び 7 名の非常勤講師。

メインテキスト：『初級日本語』（東京外大編）…… A、B クラス

『中級日本語』（東京外大編）…… C クラス

第一期生名簿（* は教員研修生）

氏 名	性別	国 籍	配置先大学
Rusdi Omar	M	マレーシア	一橋大学商学研究科
Phanthavong Viengpheth	M	ラオス	一橋大学商学研究科
Kolbeinn Bjornsson	M	アイスランド	一橋大学商学研究科
Florence Sylvia Krikorian	F	フランス	一橋大学商学研究科
Fabiana Fedeli	F	イタリア	一橋大学経済学研究科
Kusworo*	M	インドネシア	上越教育大学
Eduardo Pallias Laconsay*	M	フィリピン	山梨大学

日本語教育部門

第一期時間割

時限 曜日		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（生駒）	初級・文字（生駒）
	B	初級・文型語彙（福岡）	初級・文型語彙（福岡）	初級・会話聴解（梅岡）	初級・文字（梅岡）
	C	中級・読解（五味）	中級・聴解（鶴田）		
火	A	初級・文型語彙（丸谷）	初級・文型語彙（丸谷）	初級・会話聴解（鶴田） A・B合同	初級・文字（鶴田） A・B合同
	B	初級・文型語彙（立野）	初級・文型語彙（立野）		
	C	中級・文型語彙（三角）	中級・文型語彙（三角）		
水	A	初級・文型語彙（五味）	初級・文型語彙（五味）		
	B	初級・文型語彙（杉田）	初級・文型語彙（杉田）		
	C	中級・文型語彙（三角）	中級・文型語彙（三角）		
木	A	初級・文型語彙（丸谷）	初級・文型語彙（丸谷）	初級・会話聴解（五味）	初級・文字（五味）
	B	初級・文型語彙（福岡）	初級・文型語彙（福岡）	初級・会話聴解（杉田）	初級・文字（杉田）
	C	中級・文型語彙（三角）	中級・文型語彙（三角）		
金	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（生駒）	初級・文字（生駒）
	B	初級・文型語彙（立野）	初級・文型語彙（立野）	初級・会話聴解（梅岡）	初級・文字（梅岡）
	C	中級・専門語彙（今村）	中級・読解（五味）		

I 限 8:30 - 10:00

II 限 10:10 - 11:40

III 限 12:45 - 14:15

IV 限 14:25 - 15:55

（第二期、第三期も同様）

②第二期（97年4月コース '97 4月～'97 10月）

10 か国から 10 名の研修生が参加。3 クラス編成。5 名を未習者クラス（1 クラス）、3 名を初級前半レベルのクラス（1 クラス）、2 名を中級レベルのクラスとした。

日本語教育担当教員は 6 名の専任教官、及び 7 名の非常勤講師。

メインテキストは『初級日本語』（東京外大編）…… A、B クラス

『中級日本語』（東京外大編）…… C クラス

第二期生名簿

氏 名	性別	国 籍	配置先大学
Suphawan Srisupha-O-Lam	F	タイ	一橋大学商学研究科
Mah Hoong Hoong	M	マレーシア	一橋大学商学研究科
Mary Katrina Choi	F	オーストラリア	一橋大学社会学研究科
Wijesinghe M. Dhanapara	M	スリランカ	一橋大学社会学研究科
Aung Myatt Soe	M	ミャンマー	東京学芸大学
Ulziikhutag Bayarmaa	F	モンゴル	信州大学
Hernan Eduardo Aguirre Duran	M	エクアドル	信州大学
Stanislava Frimlova	F	チェコ	立教大学
Gerardo Ofrasio Lucena	M	フィリピン	明治学院大学
Yakov Zlich	M	イスラエル	法政大学

第二期時間割

時限 曜日		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（杉田）	初級・文字（杉田）
	B	初級・文型語彙（丸谷）	初級・文型語彙（丸谷）	初級・会話聴解（五味）	初級・文字（五味）
	C	中級・文型語彙（福岡）	中級・文型語彙（福岡）	中級・会話聴解（西谷）	
火	A	初級・文型語彙（渡辺）	初級・文型語彙（渡辺）	初級・会話聴解（生駒）	初級・文字（生駒）
	B	初級・文型語彙（丸谷）	初級・文型語彙（丸谷）	初級・会話聴解（高橋）	初級・文字（高橋）
	C	中級・文型語彙（福岡）	中級・文型語彙（福岡）	中級・文法（庵）	
水	A	初級・文型語彙（杉田）	初級・文型語彙（杉田）		
	B	初級・文型語彙（西谷）	初級・文型語彙（五味）		
	C	中級・専門語彙（今村）	中級・聴解（庵）		

木	A	初級・文型語彙（渡辺）	初級・文型語彙（渡辺）	異文化発見ゼミナール （横田・水野）	
	B	初級・文型語彙（庵）	初級・文型語彙（庵）		
	C	中級・文型語彙（三角）	中級・文型語彙（三角）		
金	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（生駒）	初級・文字（生駒）
	B	初級・文型語彙（五味）	初級・文型語彙（五味）	初級・会話聴解（高橋）	初級・文字（高橋）
	C	中級・専門語彙（三角）	中級・読解（三角）	中級・作文（鶴田）	

③第三期（97年10月コース '97 10月～'98 3月）

7か国から8名の研修生が参加。2クラス編成。6名を未習者クラス（1クラス）、2名を既習者クラス（1クラス、中級レベル）とした。また、予備教育修了生を中心に「brush up クラス」を1クラス設置した。

日本語教育担当教員は5名の専任教官、及び7名の非常勤講師。

メインテキスト：『初級日本語』（東京外大編）・・・Aクラス

『中級日本語』（東京外大編）・・・Bクラス

『上級で学ぶ日本語』（研究社）・・・Cクラス

第三期生名簿（* は教員研修生）

氏 名	性別	国 籍	配置先大学
Andrew Glenn Cummings	M	アメリカ	一橋大学法学研究科
Iqbal Murshed Kabir	M	バングラデシュ	山梨医科大学
Lee Chee Huat	M	マレーシア	信州大学
Taspoorn Chantree	M	タイ	日本社会事業大学
Chawan Ananukarn	M	タイ	信州大学
Giovanni Figueiredo Padula	M	ブラジル	東京学芸大学
Beryl Nyamekye Ampong	F	ガーナ	東京薬科大学
Yadi Sunaryadi *	M	インドネシア	山梨大学

第三期時間割

時限 曜日		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（杉田）	初級・文字（杉田）
	B	中級・文型語彙（福岡）	中級・文型語彙（福岡）	中級・専門読解（五味）	中級・専門読解（五味）
	C	上級・プロジェクトワーク （丸谷）	上級・プロジェクトワーク （丸谷）	上級・専門読解（西谷）	上級・専門読解（西谷）
火	A	初級・文型語彙（渡辺）	初級・文型語彙（渡辺）	初級・会話聴解（高橋）	初級・文字（高橋）
	B	中級・文型語彙（福岡）	中級・文型語彙（福岡）	中級・文法（庵）	中級・読解（庵）
	C	上級・プロジェクトワーク （丸谷）	上級・プロジェクトワーク （丸谷）	上級・文型語彙（中川）	上級・文型語彙（中川）
水	A	初級・文型語彙（杉田）	初級・文型語彙（杉田）		
	B	中級日本語（庵）	中級日本語（庵）		
	C	初級・文型語彙（西谷）	初級・文型語彙（西谷）		
木	A	初級・文型語彙（渡辺）	初級・文型語彙（渡辺）	異文化発見ゼミナール （横田・水野）	
	B	中級・プロジェクトワーク （三角）	中級・会話（三角）		
	C	上級・作文（鶴田）	上級・専門読解（鶴田）		
金	A	初級・文型語彙（田中）	初級・文型語彙（田中）	初級・会話聴解（高橋）	初級・文字（高橋）
	B	中級・プロジェクトワーク （三角）	中級・会話（三角）	中級・作文（松岡）	中級・翻訳日本語 （鶴田）
	C	上級・聴解（五味）	上級・読解（五味）	上級・文型語彙（中川）	上級・文型語彙（中川）

2. 教養教育科目としての日本語科目

教養教育科目として開講される日本語関係科目は広範にわたる。1997 年度は、科目数で 20、ゼメスター単位の延べコマ数で 44 コマ（1 コマ＝90 分授業が週に 1 回で、2 単位に相当）になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象、内容、総時間数などを表に記す。

2-1. 日本語・日本事情科目

「日本語 A」と「日本語 B」は学部 1 年次の留学生のためのクラスで、「一般日本事情 I」及び「一般日本事情 II」は主に学部 1・2 年次の留学生を対象としている。この 4 科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表 1：日本語・日本事情科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語 A（三枝、今村）	2 コマ ／週	学部 1 年の留学生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 120 時間
日本語 B（三枝、今村）	2 コマ ／週	上に同じ	「日本語 A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 120 時間
一般日本事情 I（松岡）	1 コマ ／週	主に学部 1・2 年の留学生	日本人が常識として知っている歴史上の知識や事柄の中から、話題性のあるもの、日常生活で必要なものを取り上げる。	夏学期開講 60 時間
一般日本事情 II（五味）	1 コマ ／週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 60 時間

2-2. 全留学生対象の日本語科目

「日本語中級・前」から「日本語選択・日本語講読」までの 12 科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの 1 年の短期留学生）、研究生（日本語研修コース修了生を含む）、日本語日本文化研修生（略称「日研生」）、学部 1・2 年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がレベルとニーズにふさわしいものを履修している。

このうち、「日本語中級・前」から「日本語上級・後」の 5 科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。前者は、1996 年度までの「日本語第一」「日本語第二」「日本語第三」という 3 レベル構成が、1997 年度にきめ細かく 5 レベルに改められた。そのクラス編成はプレースメント・テストの結果等をもとに行われている。後者は、学習者がそれぞれのニーズによって履修するものだが、1996 年度まで開かれていた「日本語選択・口頭表現」「日本語選択・漢字 C A I」は 1997 年度は休講した。

なお、1997年度の非常勤講師は、梅岡巳香、尾方理恵であった。

表2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・前（鶴田、梅岡）	4コマ／週	主に交流学生、研究生	教科書に沿って中級前期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、合わせて大学生活に必要な会話力や聴解力を習得する。	夏と冬に並行開講 各 240 時間
日本語中級・中（尾方）	2コマ／週	上に同じ	教科書に沿って中級中期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 120 時間
日本語中級・後（梅岡）	2コマ／週	上に同じ	教科書に沿って中級後期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 120 時間
日本語上級・前（三枝）	2コマ／週	上に同じ	教科書やビデオ教材を利用しながら上級前半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 120 時間
日本語上級・後（今村）	2コマ／週	主に交流学生、研究生、学部1・2年生	教科書や新聞、社会科学文献、ビデオ教材を利用して、上級後半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力、議論の技術を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 120 時間

表3：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現Ⅰ（夏：杉田、冬：三枝）	1コマ／週	主に交流学生、研究生（中級）	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
日本語選択・文章表現Ⅱ（夏：今村、冬：松岡）	1コマ／週	主に交流学生、研究生、学部1・2年生（上級）	上の練習に加え、説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得するとともに分かりやすく簡潔な要約の訓練をする。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
日本語選択・文法Ⅰ（三枝）	1コマ／週	主に交流学生、研究生（中級）	中級レベルの文法力を確実なものにする。	夏学期開講 60 時間
日本語選択・文法Ⅱ（三枝）	1コマ／週	主に交流学生、研究生（上級）	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	冬学期開講 60 時間

日本語選択・翻訳 の日本語（今村）	1コマ ／週	交流学生、 研究生、学 部1・2年 生（上級）	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳 する際の技術を習得する。	冬学期開講 60時間
日本語選択・日本 語講読（五味）	1コマ ／週	主に学部2 年生（上級）	社会・人文科学分野の新書や論文の抜粋を 読み、社会・人文科学分野の基本概念に触 れる。	夏学期開講 60時間

2-3. 学部の日本語関係科目（全学生対象）

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」「教養ゼミ：外から見た日本語」「共通ゼミ：日
本語・日本語教育」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした教養科目であり、「共通
ゼミ：現代日本語」は主に日本語日本文化研修生を対象とした科目である。

表4：学部の日本語関係科目（全学生対象）

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ （鶴田）	1コマ ／週	留学生を含 む学部1・ 2年生	言語システムそのものではなく言語を人 々がどのように使うかに焦点を当てる。	夏学期開講 60時間
現代日本語論Ⅱ （庵）	1コマ ／週	上に同じ	一般の学生にも身近な文法現象を取り上 げ最新の研究成果とともに紹介する。	冬学期開講 60時間
教養ゼミ：外から 見た日本語（今村）	1コマ ／週	学部1・2年 生	ふだん無意識に使っている日本語に目を 向け、他の言語との比較を通してその客 観的な位置づけを探る。	夏学期開講 60時間
共通ゼミ：日本語・ 日本語教育（三枝）	1コマ ／週	学部3・4年 生	現代日本語について、特に文法を中心に 考える。	通年開講 60時間
共通ゼミ：現代日 本語（松岡）	1コマ ／週	主に日研生	日本語、日本文化の基本文献を講読す る。	通年開講 60時間

3. 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語」（週2コマ）、社会学部にお
いて「社会・人文の日本語Ⅰ」、「社会・人文の日本語Ⅱ」（それぞれ週1コマ）が開講され
ている。いずれも経済学部あるいは社会学部における専門日本語力の向上を図るために開
設されたものだが、他学部生も履修することができる。

表5：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語（夏：西谷、冬：今村）	2コマ／週	主に経済学部 の交流学生、 研究生（中級）	経済学を中心とする社会科学の分野 で使われる語彙・表現をテキストを 用いて学習するほか、日本経済新聞 などの記事も講読する。	夏と冬に並行 開講 各 120 時間
社会・人文の日本語Ⅰ（杉田）	1コマ／週	主に社会学部 の交流学生、 日研生、研究 生（上級）	社会・人文科学の代表的論文を読み、 論文特有の表現を理解し使用で きるようにするとともに社会・人文 科学分野の基礎概念を習得する。	夏学期開講 60 時間
社会・人文の日本語Ⅱ（松岡）	1コマ／週	上に同じ	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容を さらに深める。	冬学期開講 60 時間

4. 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科で、「日本政治思潮」が法学研究科で、「専門日本語」と「日本語教育論」が社会学研究科で開講されている。

表6：大学院科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語（今村）	1コマ／週	主に経済学研究科 の修士、博士課程 の留学生	経済専門文献日本語の理解における落 とし穴に目を向け、言語表現に現れる 筆者の視点や立場を読みとる。同時に 論文執筆、発表の技術にも触れる。	夏と冬に並行 開講 各 60 時間
日本政治思潮 （三枝）	1コマ／週	主に法学研究科の 修士、博士課程の 留学生	マスメディアに現れる現象や法の解釈 を手段として日本人の思想・行動をい くつかの国と比較しながら考える。	通年開講 120 時間
専門日本語 （松岡）	1コマ／週	主に社会学研究科 と言語社会研究科 の修士、博士課程 の留学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に 読み解く練習を行う。文語文法の基礎 と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代 思想体系』の文章、あるいは受講生の 専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講 60 時間
日本語教育論 （松岡）	1コマ／週	主に社会学研究科 と言語社会研究科 の学生	言語教育関連の諸分野における最新の 成果が、日本語教育のための理論とし てどこまで有効であるかを検証する。 また、教育実習的なものも含める。	冬学期開講 60 時間

5. 補講としての日本語

留学生経費を利用して、正規のカリキュラム外に開講される。定期的に実施されるものとその他のものとに分かれる。いずれも単位の認定は行われない。

5-1. 春季・秋季日本語コース

センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す在学生のために、春季及び秋季に3週間の「日本語コース」が開かれている。そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通り。

表7：1997年度秋季日本語コース（97年9月3日～22日、全65時間）

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （三角、尾形）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら中級への橋渡しと聴解力の向上を目指す。	・「日本語を楽しく読む本・初中級」 産能短期大学国際センター ・「わくわく文法リスニング99」 小林・フォード・高橋 他
Bクラス （高橋、中川）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「中級から学ぶ日本語」 神戸YMCA／大阪YMCA
Cクラス （田中、梅岡、中野）	読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	・「上級で学ぶ日本語」 神戸YMCA／大阪YMCA

表8：1997年度春季日本語コース（98年3月3日～20日、全70時間）

クラス	内容・目標	使用教材
Aクラス （三角、瓜生）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら中級への橋渡しと聴解力の向上を目指す。	・「日本語を楽しく読む本・初中級」 産能短期大学国際センター ・「わくわく文法リスニング99」 小林・フォード・高橋 他
Bクラス （立野、安田、藤本）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「中級から学ぶ日本語」 神戸YMCA／大阪YMCA
Cクラス （田中、梅岡、中野）	読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	・「上級で学ぶ日本語」 神戸YMCA／大阪YMCA
Dクラス （高橋、中川、清水）	上級学習者の聴解力・語彙力・会話力の向上を目指す。	・「ビデオ 我が友、本田宗一郎」 大阪YMCA

5－2. その他の日本語補講

1997年度冬学期に、来日直後の交流学生を対象に日本語補講を実施した。

表9：1997年度冬学期日本語補講（97年10月22日～98年2月6日）

名称（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	授業数
日本語特別補講 （柏木）	4コマ／週	交流学生	初級レベルの日本語を総合的に習得 させ、「日本語中級・前」につなぐ。	112時間

（五味政信、今村和宏）